学校評価一覧表

大館市立南小学校

【校　訓】　為すことによって 学ぶ　　【学校教育目標】　絆をつむぎ ともに未来へ

＜重点実践事項＞　○豊かな心・健康な心と体をはぐくむ（徳・体）　○確かな学びをはぐくむ（知）　○「絆つくり教育プラン」の推進（未来）

＜合　言　葉＞　いいね　みなみっ子！　チームみなみでチャレンジ！　～あいさつ・返事・拍手・歌声で元気な学校を～

		評価項目	具体的内容	主担当	自己評価A 前期	自己評価A 年度	評価指標	実践課題	主な取組	担　当	自己評価B 前期	自己評価B 年度
学校経営の重点	1	豊かな心・健康な心と体をはぐくむ	思いやりの心をもち、自分のよさを認め、互いに励まし合いながら、楽しい学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。 心身の健康や体力づくりに関心をもち、健康的な生活習慣の定着や体力向上に努めている。	生徒指導主事・生徒指導部長	概ね良好		①生徒指導の機能・自己有用感	積極的な生徒指導	・三つの「み」（みつめる・みとめる・みとどける）による生徒指導 ・学級目標や自己目標の設定と振り返り	生徒指導部	4	
								自己有用感の醸成				
							②主体的な活動	全校児童が主体的に活動する学級活動・児童会活動	・自治的態度を育成する話合い活動の工夫と充実 ・児童の主体性・企画力を育成する尊重した活動 （あいさつ運動　なかよし班活動等）	生徒指導部	3	
							③思いやりの心と人間関係づくり	人間関係形成能力の向上	・地域の方々との交流 ・異学年（縦割り班）及び異校種校交流	教務主任 生徒指導部	4	
								いじめ・問題行動の根絶、不登校の防止	・学校生活アンケートの実施 ・児童を語る会の充実	生徒指導部		
								道徳的な課題の克服	・心に響く道徳の授業づくり ・考え、議論する道徳の授業実践	研究・学習指導部		
							④基本的な生活習慣	あいさつ・返事・規律ある生活	・登校指導によるあいさつ運動 ・児童会の委員会による活動	生徒指導部	3	
								望ましいライフスタイルの形成	・「メディアコントロール週間」の実施 ・「家庭学習強調週間」や「読書デー」とのタイアップ	生徒指導部		
							⑤体力の向上	継続的な体力つくりの実践	・業間運動（マラソン・なわ跳び等）の実施	生徒指導部	3	
	2	確かな学びをはぐくむ	意欲的に学習に取り組み（全員挙手・全員発表のある授業）、基礎学力が定着し、向上している。	研究・学習指導部長	概ね良好		⑥授業改善	学習形態・指導方法の改善	・全員挙手・全員発表のある授業づくり ・三つの「あ」のある授業づくり ・少人数学習指導・ＴＴ・個に応じた指導	研究・学習指導部	3	
								探究型授業の実践	・「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業 ・三つの「わ」のある授業の実践			
								言語活動の充実	・話合い活動や表現力の育成を重視した授業づくり ・図書室利用の促進			
							⑦学習意欲の向上	家庭学習の習慣化	・内容の工夫と家庭との連携・協力 ・「一人勉強ノート展」「家庭学習強調週間」	研究・学習指導部	3	
							⑧諸調査の活用	諸調査の取組の工夫と学力向上	・国・県学習状況調査等の結果の活用と回復指導 ・チャレンジタイムの実施	研究・学習指導部	3	
	3	「絆つくり教育プラン」の推進	地域の教育力を生かした様々な実践が行われているとともに、学校がその取組を分かりやすく伝えている。	教頭	良好		⑨ふるさとキャリア教育の推進	「発信・交流・連携」活動の推進 地域の「ひと・もの・こと」を生かした諸活動の充実	・「さつまいも夢プロジェクト」の実施 ・地域の人材や施設等を活用した授業実践	教頭・教務	4	
							⑩情報発信	地域・保護者への情報発信	・学校報や学年だよりの発行及びホームページの充実 ・学校評価の公表	教頭・校長	4	
							⑪ＰＴＡ・地域関係団体との連携	地域の教育力を生かした人材活用	・地域コーディネーターとの連携 ・地域関係諸団体やＰＴＡとの協働による行事運営等	教頭	4	
学校運営状況	4	組織・運営	特色ある学校づくりを推進するために、組織的・計画的に学校運営が行われている。	教頭	概ね良好		⑫学校経営方針の共通理解	学校教育目標の具現を目指した共通実践	・合言葉やキーワードを意識した全職員による諸活動の実践	教頭・校長	4	
							⑬組織的な学校運営	ＰＤＣＡサイクルによる運営改善	・定期的な評価を生かした諸活動の見直しと改善 ・全職員の学校経営参画を目指した諸会議等の精選と運用	教頭・校長	3	
	5	特色ある教育活動	地域に根ざした特色ある教育活動が展開されている。	教務	良好		⑭創意ある教育課程の編成と実施	学校行事及び諸活動の企画・運営	・子ども主体の活動を引き出す学校行事及び諸活動の計画と実践 ・「ふれあい夢集会」等の企画・運営	教務・教頭	4	
	6	教師の研修	教職員が同僚性を発揮して進んで研修し、指導に生かしている。	研究主任	概ね良好		⑮校内外の研修	研修活動の充実	・授業力向上のための授業実践 ・各種研修会への参加	研究主任 教頭	3	
							⑯校内研究	授業改善と校内研修会の充実	・研究主題解明に向けた授業及び活動の改善・充実	研究主任	3	

1　豊かな心・健康な心と体をはぐくむ

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
思いやりの心をもち、自分のよさを認め、互いに励まし合いながら、楽しい学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。 心身の健康や体力づくりに関心をもち、健康的な生活習慣の定着や体力向上に努めている。	前期	概ね良好	概ね良好	児童が屋外で遊ぶ機会が減少しており、スポーツ少年団への所属率も低下している。日常的に体を動かす機会が少なく、体力の低下が懸念されるので、今後も児童が主体的に体を動かす取組を充実させてほしい。メディアの使用については家庭の問題ではあるが、学校としても、大変よいと評価する職員が1%でもいるよう適切な使い方について継続して指導をしてほしい。
	年度			

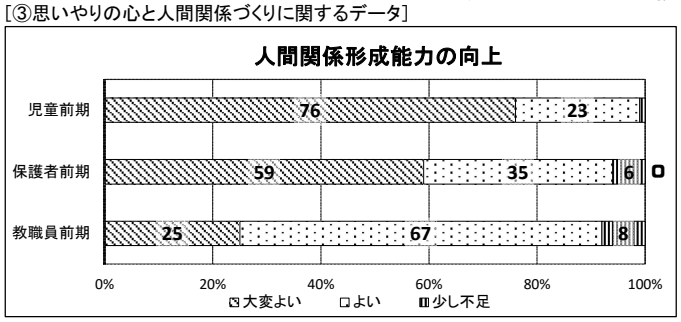
学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
〇児童、保護者ともに「学年を超えた交流」に関する評価が高くなっている。縦割り清掃やさつまいも夢プロジェクトによる活動だけでなく、各学習や休み時間を通しても異学年交流が進んで行われていることによるものと考えられる。親しい反面、呼び捨てや乱暴な言葉遣いをしている姿が見受けられるため、2学期以降も礼儀やふさわしい言葉遣いには気を付けながら、異学年との繋がりを深めていきたい。
〇メディアコントロールについては、不十分だと考えている児童、保護者が昨年とほぼ変わらず、変化があまり見られない結果となった。昨年に引き続き、熊による影響や天候によって家庭内で過ごす時間の増加等が原因の一つと考えられる。今年は、取り組み方をノーメディアではなく、メディアコントロールへと変更し、各家庭に合わせて取り組みやすいように計画した。また、夏休みには、メディアの代わりに頑張ることを保護者とともに児童に決めてもらい、メディア以外への活動に目を向けられるようにした。この取組を続け、学校と家庭が同じ目標に向かえるように、協力していきたい。
〇体力の向上について、教職員の評価が昨年よりも10ポイント以上下回っている。1学期の業間運動を授業内での取組に変更したことが原因と考えられる。今後は、体育館での5分間走や授業内での体力づくりの仕方の提示等を通して、継続的な体力の向上を図りたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
①生徒指導の機能・自己有用感	積極的な生徒指導、自己有用感の醸成	・3つの「み」（みつめる・みとめる・みとどける）による生徒指導 ・学級目標や自己目標の設定と振り返り	4	
②主体的な活動	全校児童が主体的に活動する学級活動・児童会活動	・自治的態度を育成する話合い活動の工夫と充実 ・児童の主体性　・企画力を育成する活動（あいさつ運動　なかよし班活動等）	3	
③思いやりの心と人間関係づくり	人間関係形成能力の向上、いじめ・問題行動の根絶、不登校の防止、道徳的な課題の克服	・地域の方々との交流　・異学年（縦割り班）及び異校種校交流　・学校生活アンケートの実施 ・児童を語る会の充実　・心に響く道徳の授業づくり　・考え、議論する道徳の授業実践	4	
④基本的な生活習慣	あいさつ・返事・規律ある生活、望ましいライフスタイルの形成	・登校指導によるあいさつ運動　・児童会の委員会による活動 ・「メディアコントロールデー」の実施　・「メディアコントロールカード」の活用	3	
⑤体力の向上	継続的な体力つくりの実践	・業間運動（マラソン・縄跳び）の実施　・体育授業での体力つくりの取組	3	

☆実践　〇児童　□保護者　◇教職員

[③思いやりの心と人間関係づくりに関するデータ]



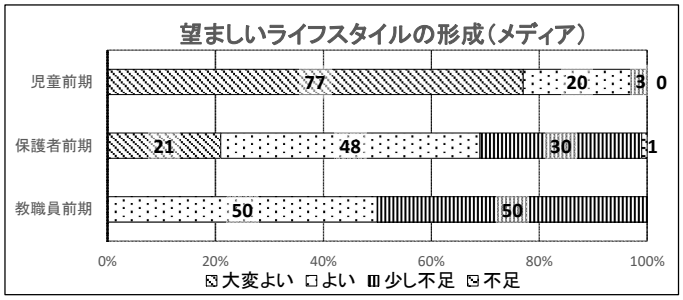
〇縦割り班で、みんなと協力して活動している。。

□掃除や児童会活動などの縦割り班活動で、異学年が仲よく交流できていると思いますか。

◇児童は、様々な体験活動や交流等を通して人との関わりのよさを学んでいますか。

☆縦割り清掃班顔合わせ（5，6年生と1年生）

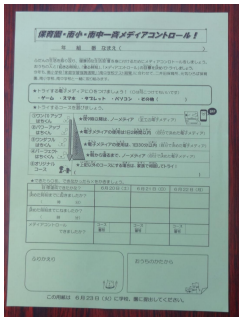
[④基本的な生活習慣に関するデータ]



〇「南小メディア3ヵ条」や自分のめあてを守っている。

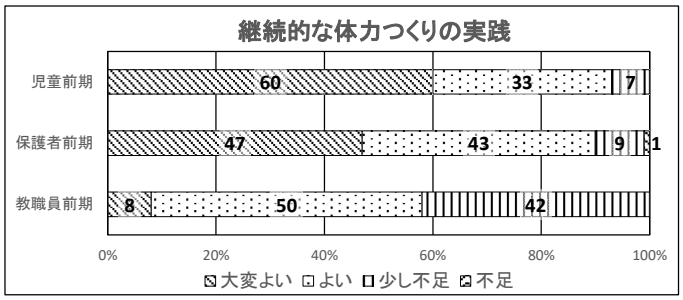
□お子さんは、「南小メディア3ヵ条」を守ろうとがんばっていますか。

◇児童は、ノーメディア等の実施により、望ましいライフスタイルを身に付けていますか。



☆一斉メディアコントロールの実施

[⑤体力の向上に関するデータ]



〇体力つくり（マラソン、なわとびなど）をがんばっている。

□お子さんは、休み時間に体を動かして遊んだり、体力つくりに励んだりしていると思いますか。

◇継続な体力づくりの実践等により、児童の体力は向上していると思いますか。

☆全校一斉新体力テスト

2　確かな学びをはぐくむ

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
意欲的に学習に取り組み、基礎学力が定着し、向上している。	前期	**概ね良好**	**概ね良好**	授業参観では、児童が元気よく主体的に学習に取り組んでいた。先生方も頑張っていた。言語活動の充実に関する教職員アンケートの評価は低く、先生方が高い水準を求めていることがうかがえる。今後は、児童が「話してみたい」と思える授業づくりに取り組んでほしい。家庭学習については、児童の意欲が持続するよう取り組んでほしい。
	年度			

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

【言語活動の充実について】図書委員会の活動の成果として、読書への意欲が高まり、図書室の利用者や、いろいろなジャンルの本を読んだりする児童が増えてきていることが挙げられる。読書によって興味関心の幅を一層広げたり、語彙を増やして自分の考えをより分かりやすく伝えたり、友達の考えに共感したりできるようになることを期待している。また、集会の司会をする場面では、原稿を持たずに話すこと、自分の考えを発表する場面では、自分から一番遠い距離にいる友達に届くような声の大きさで話すことを意識できるようになってきた。友達の話をよく聞いて、その考えにつなげて自分の考えを伝えることも指導している。児童の数が少ないことを生かして、今後も、自分の考えをもって全員が発表したり、友達と話し合ったりしながら学習を深められるようにしていきたい。

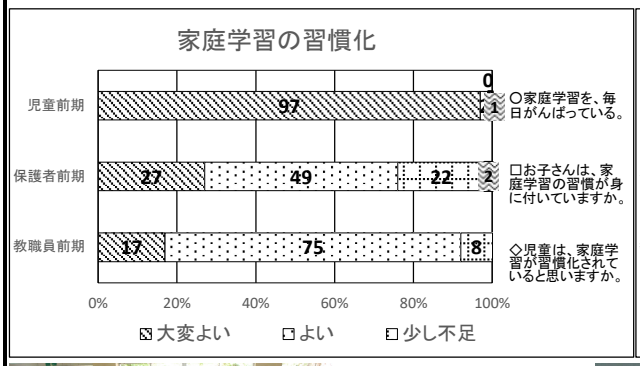
【家庭学習の習慣化について】昨年度末と比べると、保護者・児童・教職員ともに「大変よい」「よい」の数値が増加している。しかし、児童はほとんどが「がんばっている」と回答しているが、保護者の目線では、まだまだ習慣化が必要だと感じている回答が多い。本校の実態から、多くの児童は放課後児童クラブやスポーツ少年団が始まるまでの間に宿題や一人勉強をしている。そのため、児童が家庭で学習している姿を保護者は見ることが少ないことも理由の一つだと考えられる。これまでに取り組んできた「家庭学習強調週間」を継続し、保護者も一緒になって家庭学習に取り組めるように意識付けを図りたい。保護者の励ましの言葉やアドバイスが児童の意欲をより高めると思うので、PTAや学年通信などを利用して一年を通して協力をお願いし、もっと啓発していきたい。また、学校での学習や家庭学習の大切さについて児童と考える機会をもちたいと考えており、低学年・高学年に分かれたオリエンテーションや学級会の時間を活用して、児童の学習意欲を高めていきたい。

【年度（→次年度）】

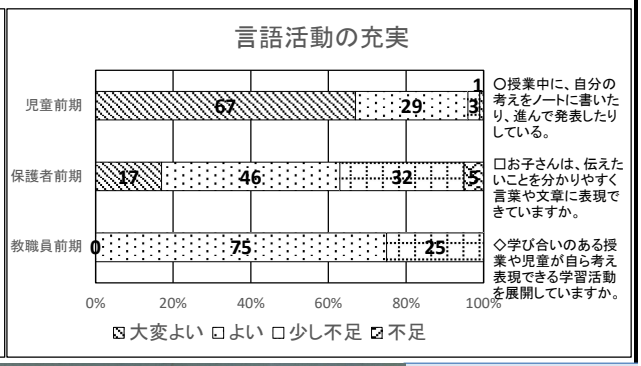
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
⑥授業改善	学習形態・指導方法の改善 探究型授業の実践・言語活動の充実	・三つの「あ」のある授業づくり　・少人数学習指導・TT・個に応じた指導 ・「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業　・三つの「わ」のある授業の実践 ・話合い活動や表現力の育成を重視した授業づくり　・図書室利用の促進	3	
⑦学習意欲の向上	家庭学習の習慣化・読書	・内容の工夫と家庭との連携・協力	3	
⑧諸調査の活用	諸調査の取組の工夫と学力向上	・国・県学習状況調査等の結果の活用と回復指導 ・チャレンジタイムの実施	3	

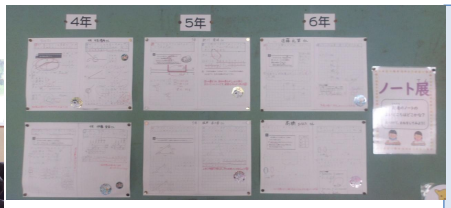
☆実践　○児童　□保護者　◇教職員

〔⑥授業改善に関するデータ〕



〔⑥授業改善に関するデータ〕

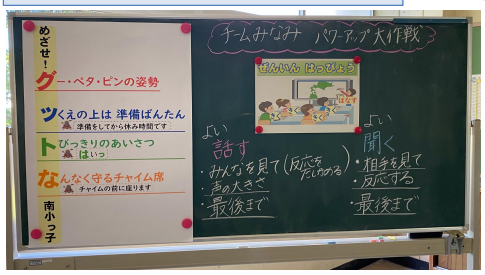


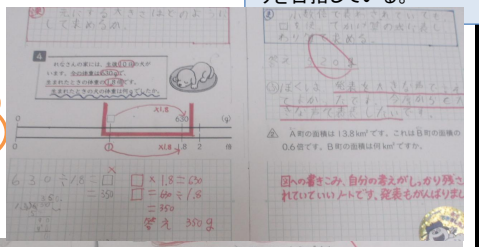


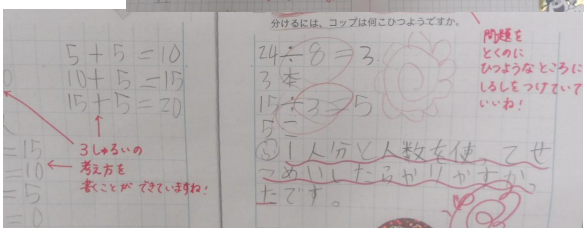
☆授業ノートの紹介
工夫が見られる児童の授業ノートを展示し、紹介した。
自分の考えや友達の考えを丁寧に書いたり、気が付いたことを書き足したりしているものもある。考えた足跡が分かるノートづくりを目指している。

話す人はみんなの方を向く、聞く人は話す人を向くということを意識で

☆学習オリエンテーション
低学年・高学年に分かれて、学習の約束を確認したり、話合い活動のために必要なことを共有したりした。







3 「絆つくり教育プラン」の推進

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組を分かりやすく伝え、地域の教育力を生かした様々な実践が行われている。	前期	良好	良好	「さつまいも夢プロジェクト」をはじめとする地域と協働した教育活動が積極的に行われており、今後も継続してほしい。学校報等を通じて学校の取組や児童の様子を積極的に発信していただいていることで、小学校での学びを保育所での保育にも生かすことができており、有り難い。
	年度			

学校評価の概要と学校の改善策

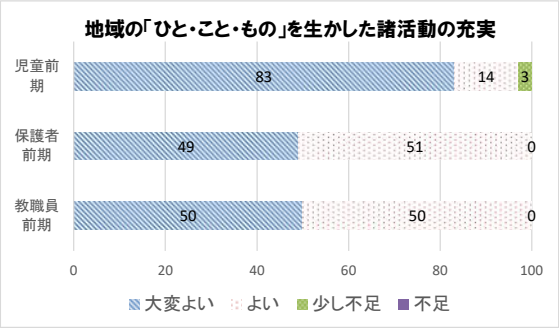
【前期（→年度）】
〇「さつまいも夢プロジェクト」は、本校の教育活動の柱として位置付けられ、保護者や地域からも高い評価を得ている。また、秋田市の大森山動物園との交流も継続しており、発展性の高い学習活動となっている。今年度の「ふれあい夢集会」では、動物園職員を講師に迎え、「種の保存」をテーマに飼育員の方々の工夫や努力について学ぶなど、児童の視野を広げる貴重な機会となった。
〇 PTA・地域との連携も充実しており、4月のPTA総会は9割以上、7月の学期末PTAは8割を超える出席率であった。また、学校評価アンケートは、「地域の教育力の活用」については、保護者の「大変よい・よい」の割合が100%、「地域・関係団体との連携」については、保護者の「大変よい・よい」の割合が97%となり、本校の取組への高い評価がうかがえた。
〇「さつまいも夢プロジェクト」をはじめ、高齢者施設との交流、二井田公民館、真中公民館、二井田保育所、元気ひろば保育園、南中学校との連携など、地域と協働した教育活動を積極的に推進している。また、地域の人材や施設、企業を教育活動に生かすことで、児童の豊かな学びや地域への理解、ふるさとへの愛着を深めている。
〇 後期は、学習発表会やマラソン記録会、スキー教室などの行事をPTAや地域の協力を得ながら進めていく。これらの活動を通して地域との交流をさらに深め、地域のよさや特色を生かした教育活動を、学校・家庭・地域が一体となって一層推進していきたい。

【年度（→次年度）】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
⑨ふるさとキャリア教育の推進	「発信・交流・連携」活動の推進 地域の「ひと・もの・こと」を生かした諸活動の充実	・「さつまいも夢プロジェクト」の実施 ・地域の人材や施設等を活用した授業実践	4	
⑩情報発信	地域・保護者への情報発信	・学校報や学年だよりの発行及びホームページの充実 ・学校評価の公表	4	
⑪PTA・地域関係団体との連携	地域の教育力を生かした人材活用	・地域コーディネーターとの連携 ・地域関係諸団体やPTAとの協働による行事運営等	4	

☆実践　〇児童　□保護者　◇教職員

［⑨ふるさとキャリア教育の推進に関するデータ］



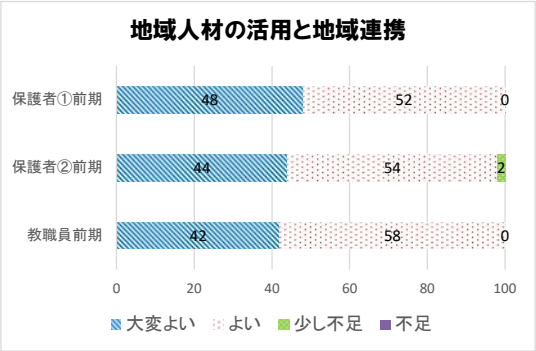
〇いろいろな活動を通して、地域の方とふれあうのが楽しい。

□お子さんは、「さつまいも夢プロジェクト」などを通して、地域の「ひと・もの・こと」と関わっていると思いますか。

◇さつまいも夢プロジェクトなどの取組を通して、地域と連携したふるさとキャリア教育が展開されていますか。

☆ふれあい夢集会
今年度も、さつまいも夢プロジェクトの一環で、秋田市大森山動物園の職員の方をお招きして、ふれあい集会を開催した。高学年は「種の保存」というテーマで、動物の繁殖や飼育について学ぶことができた。

［⑪PTA・地域関係団体との連携に関するデータ］



☆福祉高齢施設へのプレゼント
毎月一回昼休み後、お隣の南ガーデンの利用者の方々へ全校による歌をプレゼントしている。
7月には七夕飾りを制作し、南ガーデンさんやデイサービスセンター大館南さんの方々にプレゼントした。

□①学校は、子どもたちの学習に地域の方々の教育力（さつまいも関連や地域探検・校外学習等）を効果的に活用していると思いますか。

□②学校は、地域の関係団体やPTAと効果的に連携して、行事（交通安全指導や危険箇所点検等）を行っていると思いますか。

◇地域の教育力を生かした人材活動、関係団体との連携協力体制が機能していますか。

4　組織・運営

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
特色ある学校づくりを推進するために、組織的・計画的に学校運営が行われている。	前期	**概ね良好**	**概ね良好**	昨年度の教職員アンケート結果と比較すると、学校経営方針の共通理解及び組織的な学校運営に関する結果が向上している。学校経営方針については校長の明確なビジョンのもと、教職員が共通理解して学校運営に取り組んでいることがうかがえる。
	年度			

学校評価の概要と学校の改善策

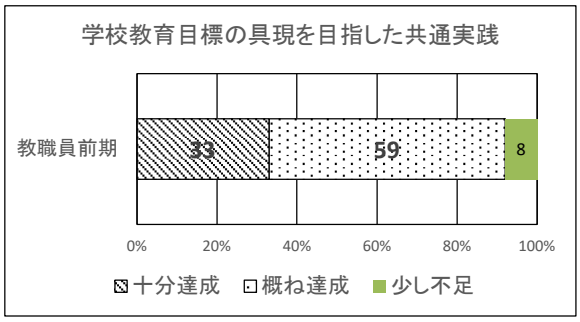
【前期（→年度）】
〇昨年度前期は、左のグラフについては「十分達成18%　概ね達成73%　少し不足9%」であった。右のグラフについては「十分達成9%　概ね達成91%」であった。どちらのグラフにおいても、十分達成の割合が昨年度前期から2倍近く増えている。校訓や学校教育目標を体現した子どもたちの姿を職員が明確にイメージし、対話を重ねながら組織として手立てを講じてきた結果と考える。まずはよいスタートを切った。
〇今年度は授業改善、授業力向上を最重点として進めているが、このことが南中学校との共通指導実践にも好影響を及ぼしている。放課後の時間を使って定期的に職員による研修を行ってきたことが授業改善を促進し、結果、子どもたちへの「三つの『あ』」の浸透や、子どもたちが「三つの『わ』」を実感することにつながっている。今後も対話に基づいた研鑽を重ねたい。
〇働き方改革の完遂は永遠の課題であり、どこまで行ってもゴールに辿り着くことは無いように思われる。しかし、何のための働き方改革なのか、働き方改革が意図するところは、と考えると着手できるところはまだまだある。施策の廃止や規模縮小、方向性の転換については時にPTAの方々や地域の皆様との熟議を要するが、今後も子どもたちの成長を念頭に置いて進める。

【年度（→次年度）】

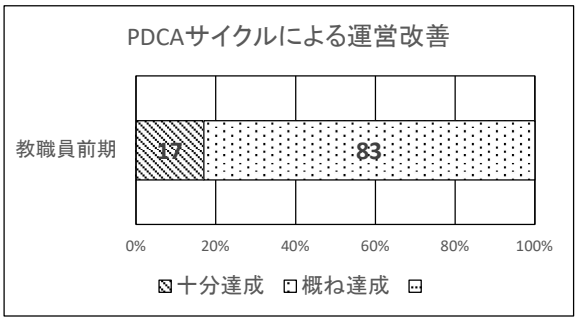
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
⑫学校経営方針の共通理解	学校教育目標の具現を目指した共通実践	・合言葉やキーワードを意識した全職員による諸活動の実践	4	
⑬組織的な学校運営	PDCAサイクルによる運営改善	・定期的な評価を生かした諸活動の見直しと改善 ・全職員の学校経営参画を目指した諸会議等の精選と運用	3	

☆実践　〇児童　□保護者　◇教職員

[⑫学校経営方針の共通理解に関するデータ]
◇学校教育目標の具現を目指して、共通実践が行われていますか。
（3つの「あ」、チームみなみ、あいさつ・返事・拍手・歌声など）



[⑬組織的な学校運営に関するデータ]
◇PDCAサイクルによる学校運営が、充分行われていますか。



☆型から入り、中学校へつなぐ
　南中学校との共通指導実践については、低学年にてその型を指導し、どの学年でも継続の徹底が重要と考える。子どもたちの内発的動機付けも大切にしながら、南小学校のスタンダードとして定着させたい。

☆チームみなみが真に目指すところ
　挨拶や返事、歌声に加えて、普段の学習でも発表や反応で子どもたちの声が少しずつ上がるようになってきている。今後も話したくなる、話し合いたくなる授業を構想し、学び合いを通して自身の考えを深められるようにしたい。

☆避難訓練もブラッシュアップ
　昨年度までのものを土台に企画提案（P）し、実施（D）する。実施後は児童の動きや達成の具合を確認（C）し、日々の実践に反映（A）させる。この反映させたものが次の企画提案につながる。今年度は避難訓練に加えて、交通安全教室も内容が刷新された。

5　特色ある教育活動

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
地域に根ざした特色ある教育活動が展開されている。	前期	良好	良好	錦神社について調査した内容をパンフレットにまとめ、修学旅行先で配布する取組は大変意義がある。忠犬ハチ公、安藤昌益など南学区ならではの地域素材・地域人材を生かした特色ある教育活動が充実している。
	年度			

学校評価の概要と学校の改善策

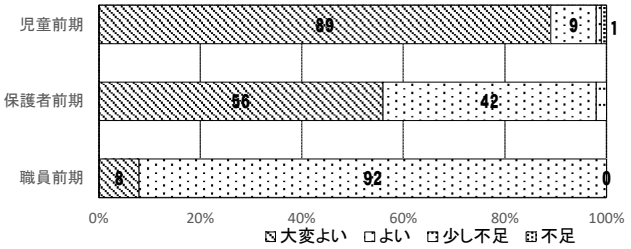
【前期（→年度）】
〇今年度も小中合同運動会を開催した。生憎の空模様だったが全競技を行うことができた。なかでも、中学校の「借り物競走」では、「兄弟いる人～。」の呼びかけに小学生が大勢出てきて、みんなでゴールする場面があり、会場が大いに盛り上がった。児童、生徒数の減少でチーム編成をこれまでの3色から2色にしたが、小中それぞれの競技を応援し合ったり手伝ったりして絆を深めることができた。
〇地域コーディネーターや錦神社の宮司さんをゲストティーチャーに迎え、さつまいもの苗植えや錦神社の歴史について学んだ。また、大館自然の会や保護者の方々と一緒にとんぼを観察し、地域の自然に親しんだり、地域の施設や企業を見学することで、地域の人とのつながりを感じたりすることができた。地域の方々のおかげでより深まりのある学習を進めることができている。
〇ふれあい夢集会では、低学年と高学年に分かれて、大森山動物園の飼育員さんから「動物園の仕事」や「種の保存」をテーマに講話をいただいた。写真や動画、ペンギンの卵等の実物を見せながらのお話だったこともあり、子どもたちにとって興味深かった。今年度から動物園訪問は、偶数学年だけの訪問になるが、奇数学年は、収穫したさつまいもを企業や施設に届けたり、販売したりすることでさつまいも夢プロジェクトの活動を広げていく。

【年度（→次年度）】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
⑭創意ある教育課程の編成と実施	学校行事及び諸活動の企画・運営	・児童主体の活動を引き出す学校行事及び諸活動の計画と実践 ・「ふれあい夢集会」等の企画・運営	4	

☆実践　〇児童　□保護者　◇教職員

〔⑭創意ある教育課程の編成と実施に関するデータ〕



〇運動会やさつまいもプロジェクトなどに、進んで取り組んでいる。

□運動会などの学校行事や、さつまいも夢プロジェクトなどの活動に子どもたちは意欲的に取り組んでいると思いますか。

◇学校行事や諸活動の計画や運営に、工夫改善が図られているか。

☆小中合同運動会（5／9）
今年も小中合同で運動会を開催することができました。

☆ふれあい夢集会（6／23）
動物園の仕事や種の保存について学びました。ペンギンの卵やキリンの哺乳瓶に興味津々でした。

☆さつまいも苗植え（5／21）中央上、☆総合的な学習（6／25）中央下、☆地域探検（6／30）右上、☆とんぼ公園（7／1）右下
地域の方々から学び、様々な活動に取り組んでいます。

6　教師の研修

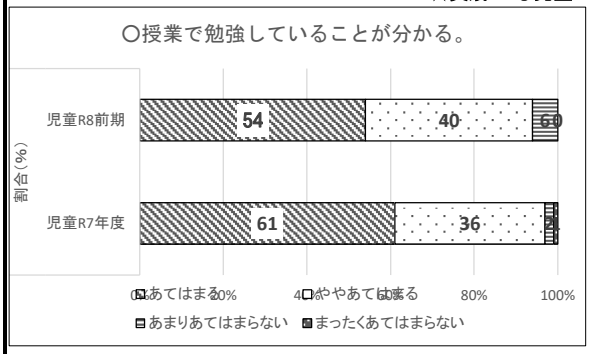
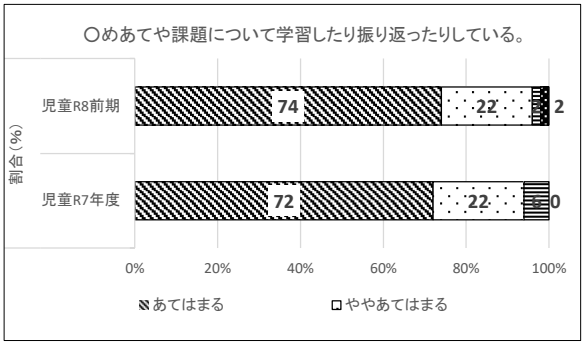
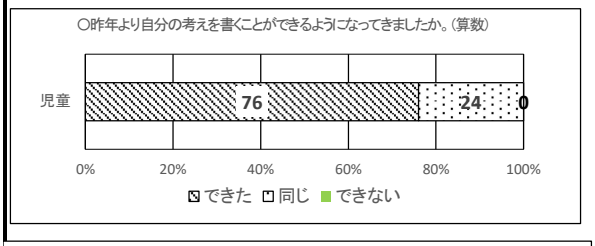
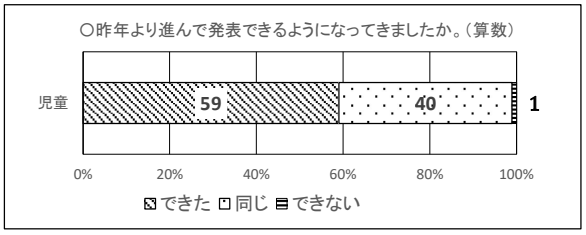
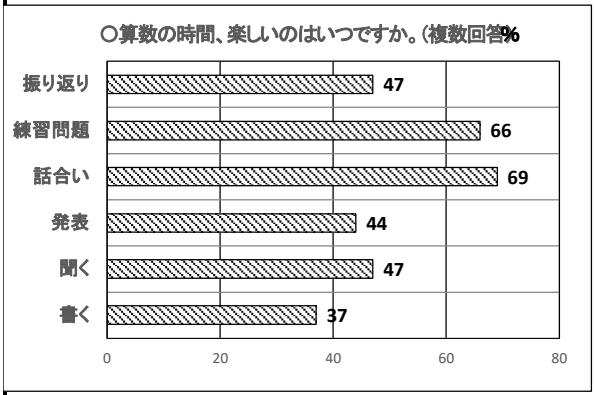
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校運営協議会委員のコメント
教職員が同僚性を発揮して進んで研修し、指導に生かしている。	前期	概ね良好	概ね良好	2週間に一度、ミニ研修会を実施するなど、若手教員の育成や教職員全体の指導力向上に努めている。欠席した児童の学習のフォローを充実させるとともに、一人一人のつまずきに寄り添いながら、きめ細かな指導をお願いしたい。
	年度			

学校評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

学校アンケートでは、児童アンケート16「授業で勉強していることが分かる」、17「めあてや課題について学習したり振り返ったりしている」について、肯定的な回答の割合が昨年度よりも低下した。児童が自分の学びを実感できるように、見通しをもたせたり、振り返ったりする活動が十分にできていなかったことが要因として考えられる。また、研究部で行った『算数アンケート』では、友達との話合いや学び合いに楽しさを感じている児童が多く、算数の学習に前向きに取り組んでいる一方、高学年になるにつれて算数への苦手意識から、発表に消極的である児童の割合が増えている。これらの結果から、今後は、めあての明確化と振り返りの充実を授業改善の重点事項とし、児童が学びの成果を実感できる授業づくりを進めていく必要がある。また、自分の考えを安心して伝えることができるように、学級全体で学び合うことの意義や、異なる考えを共有することで学びが深まることを実感できる場を設定することで、友達の考えを聞くだけでなく、自分の意見を伝えることが集団の学びに貢献するという意識を育て、自信をもって発言しようとする態度の育成につなげていきたい。また、そのような授業づくりを推進するため、教職員へのアンケートをとることで課題意識やニーズを把握し、それぞれの要望に沿った研修を計画・実践したい。

【年度（→次年度）】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 後期
⑮校内外の研修	研修活動の充実	・授業力向上のための授業実践 ・各種研修会への参加	3	
⑯校内研究	授業改善と校内研修会の充実	・研究主題解明に向けた授業及び活動の改善・充実	3	

☆実践　○児童　□保護者　◇教職員